

財団だより

第129号

2011.3

# 多摩川

事業年報特集号

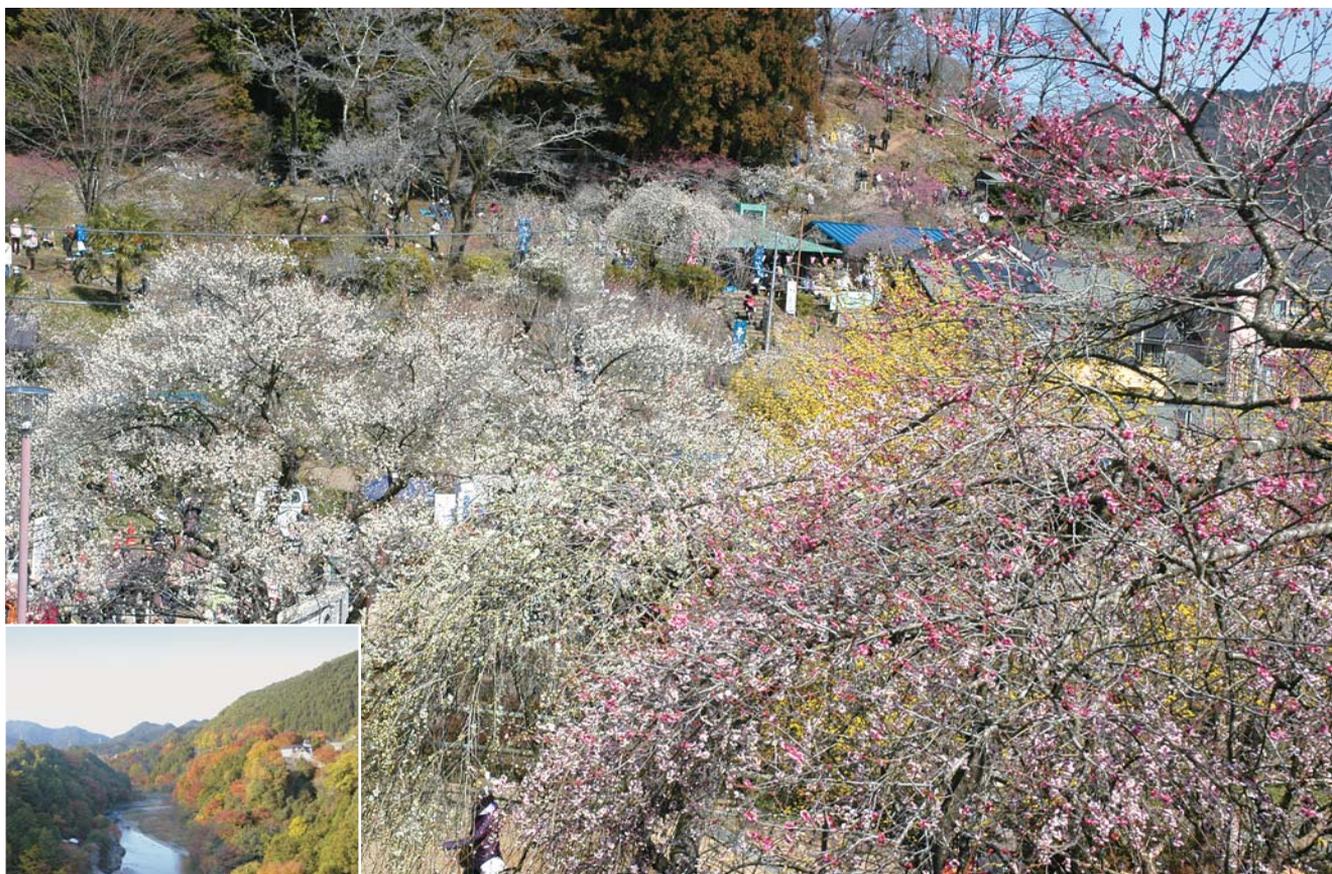


Photo & Text

遠藤穎彦 (Hidehiko Endo) 渋谷区在住

## 吉野梅郷と吉野峡

毎年多くの観梅客が訪れる吉野梅郷は、青梅線日向和田駅付近の多摩川と右岸一帯は関東有数の梅の里。日向和田駅から神代橋を渡り15分程度で全山が梅の花に被われている様な梅の公園に入り山を一回りしてその景観を満喫。

この付近は河岸段丘を多摩川が深く削った谷で、吉野峡と呼ばれ切り立った両岸と木々、深く澄んだ水と白い砂利のコントラストの見事さを神代橋・好文橋・奥多摩橋の上からの眺望、特に晩秋の紅葉は素晴らしいものでした。

## Contents 目次

巻頭言	2
特別寄稿	3
多摩川に学ぶ	4
多摩川散歩	5
私と多摩川	6
歴史・多摩川	7
インフォメ/多摩川	8
たまがわスケッチ散歩	10
財団事業年報特集	
事業日誌	12
研究助成事業	14
第2回社会貢献学術賞	18
多摩川流域で活動している団体一覧	19

# 巻頭言

## RIVERS



撮影 / 南健二

財団法人  
C.W.ニコル・アフアの森財団  
理事長

大英帝国勲爵士  
C.W.ニコル

私が最初に日本に来たのは、1962年であった。そしてこれまでの人生のなかで、生まれ故郷よりもどの国よりも多くの時間をこの国で過ごしている。1980年に長野の片田舎に住まいを構えてからは、北は北海道の知床から南ははるか慶良間諸島まで、日本各地を旅してきた。北には流氷、南にはサンゴ礁の広がる海がある国など、世界のどこにあるだろうか。



撮影 / 南健二

20代前半に日本各地の山や谷を歩きはじめた頃は、勢いよく流れる清流を見ては驚き、地元

の人がヤマメなどを食用に釣りあげる姿を見ては驚いたものだ。当時、故郷の英国では、新鮮な川の恵みに与れる人と言え、貴族か富裕層（もしくは密漁者）に限られていた。

だがその後の長い年月の間に、コンクリートの護岸が施されたり砂防ダムができたりして、山を流れる多くの川が本来の姿を失い、不注意と無関心から汚染するようになった。昔は子どもたちが川で遊ぶのをよく見かけたものだが、今では、学校や役場が川で遊ばないように指導している。

だがその一方で、地元の人々や自治体の並々ならぬ努力と情熱によって救われた川もある。多摩川の源流がよい例である。東京都水道局は、行き届いた森林管理と水の保全によって素晴らしい成果を上げてきたが、私たちみんなの支援、協力があれば、なおいっそうの成果を上げることができるはずである。

流れの速い川やアメリカ南部の海岸線よりも長い海岸線をもつ日本は、世界有数の豊かな淡水漁

場になることができるし、またそうなるべきである。

この原稿を書きながら右に目をやれば、鳥居川が流れている。鳥居川はこのあと千曲川に合流し、やがて信濃川と名前を変えて日本海に注ぐ。

ここに来て間もない頃、昔は鳥居川支流の小さな川へ行って鎌でサケを捕る方法があったと、ある老人が教えてくれた。当時は、サケがはるばる松本まで産卵のために溯上していたのである。また昭和の初期までは、九州北部から北海道に至るまで、日本各地にサケの遡上できる川があったのである。そしてこれを再生させることは「可能」である。

何といたっても日本は国土の67%が森林であり、健全で持続可能な森林を取り戻すことができれば、健全で持続可能な河川を取り戻すこともでき、同時に、海岸線や湿地を再生させることもできるのである。私たちは20世紀のあまりにも行き過ぎた浪費の埋め合わせをし、環境破壊を修復しなければならない。ロンドンを流れるテムズ川はかつてひどく汚染していたが、今ではサケやカワウソが戻ってきているという。そうであるならば、この日本ではどのようにすればよいかを考えてみようではないか。専門的な技術と知識は揃っているのだから、大切なことは、やろうとする意思と勇気と覚悟があるか、である。



撮影 / 南健二

## 特|別|寄|稿

# 里山の恩恵次世代に



NPO 青梅林業研究グループ  
理事長 中島 邦彦

地球温暖化問題を契機に、生活様式や産業・社会構造の在り方が環境に優しい仕組みへと変革が求められている。既に、京都議定書の第1約束期間（2008年から2012年）の渦中にあり、身近な森林の働きへの期待が、ますます高まりを見せている。

森林政策の歴史を振り返ってみると、森林史上もつとも荒廃した森林破壊は明治維新にかけての乱伐と言われ、その対策として端を発した治水事業は、人口造林を奨励し木材の国産化を目指しながら引き継がれ、治山治水事業としては洪水の減少等、災害防止には多大な成果を得ることができた。

しかし、今日では手入れ不足の暗い森林、鹿による食害など、災害発生の危険要素が急浮上しており、皮



間伐体験



雨天時の座学

肉なことに市場価格の低迷から木を伐れないことによる森林破壊が全国的に増加傾向を示している。

採算を忘れて産業扱いにし、詭弁に満ちた補助政策、責任の所在が曖昧な林野行政の存在意義はもはや無いに等しい。

腰を据え、国土を守ることが国民の期待に通ずることを肝

に命じ、地域、流域にあった保育・保全管理の仕組みを作ることが現実的であると共に、国策であるべき森林行政の一貫性が不可欠であることを再認識すべきである。

このような森林を取り巻く環境の中で発足した当グループは、これまで保育、保全の仕組みについて各地の取り組みや、身近な事例を整理する中から、避けて通れない課題に取り組んでいる。

「蛇口をひねると水が出て」、「ボタンを押すと火が点く」こんな生活環境が当たり前の中で、はたして蛇口の向こうに何が見え、ボタンの向こうに何が見え、次世代を担う子供達は何を夢見て育っていくのだろうか。

木を育てたこともない、火を焚いたこともない人達で溢れ、工業製品に覆い尽くされ、疑似体験の中で自然や人に接し、歪んだ人間が育っていくことを憂うのは私どもだけであろうか。

元気な森林は人を優しく迎え、病んだ森林は時には怒り、自然の力を教えてくれる。

蛇口やボタンの向こう側には、もはや有限の世界が待ち受けていることを直視し、身近な里山の恵みを持続的に享受するために、まずは共に行動しようではありませんか。



伐出した間伐材での木工



炭材づくりと炭焼体験

特定非営利活動法人 青梅林業研究グループ

〒198-0001 青梅市成木七丁目902番地

東京都森林組合青梅支所内

TEL: 0428-75-0855

## 多摩川に学ぶ

### 多摩キャンパスのビオトープ設置



中央大学経済学部 教授  
黒須 詩子

経済学部がキャンパスにビオトープ2カ所を設置する事業に関わった。苦労がなかったわけではない。生物学者であるから、ビオトープが出来れば、どのような生物が戻ってくるか、池が生物多様性の維持に間違いなく大きな役割を果たすであろうことは予測できたが、水場に工事を施すことのリスクや経費に関しては、専門外のことであるから全く知識がなかったため、たびたび途方に暮れた。しかし、多くの方々の助けをいただき、小規模ながらの「治水」に成功し、結果として立地条件・景観ともに、これ以上望めないという2カ所の池が2010年の晩秋に完成した。



滝坂湧水施工前

中央大学の多摩キャンパスは、多摩ニュータウンの開発とほぼ同時期、30年以上前に造成され、多摩丘陵の最も自然度の高い51万㎡を、無慈悲とも言えるほど大きく切り崩したと聞くと、未だ緑に溢れ起伏のある景観は私の目には美しく映る。また、これほど大規模な造成をしたにもかかわらず湧水も枯れてはいなかった。キャンパスのある東中野には「谷津入り(やついり)」という地名が残っている。「やつ」は八に通じるという説の通り、8カ所の主要な湧水が存在し、それぞれ古くからの名前も付いていることがわかった。地元の人たちの生活と密接に関わり、水田に利用され、絶えず枯れること無く流れていると親しまれるゆえの愛称も持っている。施工前は、単に落ち葉で埋まっている平坦な泥濘あったところ2カ所を掘り下げ池にした。キャンパス内には、遅くとも縄文時代以来人間が棲み着いていたらしい。バイオフィリアと言う言葉を提唱したエドワード・ウィルソンにより、人間が好む土地は、眺望が良く、高台にあり、川、海などの水

域の側なのだそう。多摩キャンパスはみごとにその条件を満たしているではないか。

私は元来昆虫学者として教育を受けた。長い間研究対象としてきたのはアブラムシである。アブラムシは農作物の害虫として有名であるが、私が専門に扱うグループはヒラタアブラムシ亜科と呼ばれるグループで、虫癭(ゴール、虫こぶ)を形成する。とくにエゴノキやハクウンボクにゴールを形成するツノアブラムシの分類と生態を研究してきた。これらのゴールは簡単には見つからない。ここでツノアブラムシの生活環の説明をすると、長くなり、複雑すぎるので省略するが、アブラムシは生活環を全うするのに必ずしもゴールを必要としないため、ゴールは稀であり、見つかりにくいのである。しかも、環境に対する要求が非常に厳しい。外国の調査地で、短い滞在期間に良い成果を上げようと思えば、何処であろうか、自然と引かれるように小川や湧き水のあるところを目指した。このような体験が、湧水探索には役だったかもしれない。キャンパス一帯の標高125mあたりで連光寺互層と言われる地層の、砂層と礫層中を水が流れている、という知識も得た。起伏のある土地と湧水の存在ということが、意外なほど多様な生物相を維持していて、何種かの貴重な両生類や、絶滅危惧種に入れられる植物もみられる。しかし、キャンパス内でカエルが繁殖できる溜まり水は一カ所しか無く、なんとしてでも安定した生息場所を確保する手伝いをしてやらねばならない、というのがビオトープ作りの発端であった。環境教育にビオトープをいかに役立てるか、ということよりはむしろ私自身が多くを学んだ。

経済学部がビオトープ作りの主体となったということ、意外そうな反応が返ってくる。企画の実行委員会は、私を除きスポーツ科学者1名、気象学者1名、数学者1名、中国学者1名、経済学者7名で構成された。近年経済学と自然科学の関係は密接になりつつあるようだが、一般的な意味での「実験系の自然科学者」ではない先生達の御理解と協力があり、職員の方達の誠実な対応があり、初めて出来たことであった。ゼミ生達は、やはり実験系の自然科学者として養成されるわけではなく、将来は、会計士、銀行員やトレーダーを志望しているが、ビオトープ作りを通して、里山作りの体験に少しずつ参加してくれるようになり、動植物の名前を覚え、博物学を楽しむことを学んでくれたことが、何よりの教育効果であろう。



滝坂湧水施工後

# 多摩川散歩

## ■おたかの道湧水園■

### 国分寺市立歴史公園史跡武蔵国分寺跡

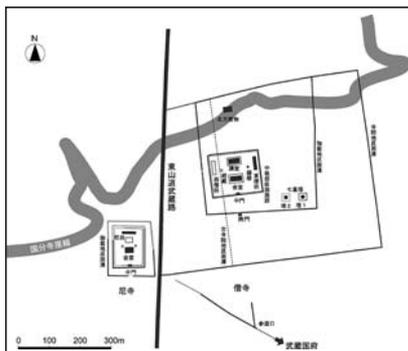


国分寺市教育委員会  
ふるさと文化財課長

福田 信夫

国分寺崖線を背に南面して建立された天平の大伽藍

およそ 1250 前、聖武天皇の詔に基づいて、古代武蔵国（現在の東京都・埼玉県・神奈川県の一部）の信仰の拠点として、この地に、国分僧寺と国分尼寺という二つのお寺が建立されました。市名はこの古代の寺院に由来します。当時は、現在の府中市に政治の中心地である国府があって、その北方約 2 キロで、都へ通じる官道である東山道武蔵路沿いにあたります。



武蔵国分寺跡全体図

鎮護国家のための大伽藍は、国府と同じ立川段丘面から国分寺崖線を経て、武蔵野段丘面にまで及んでいます。崖線下には、真姿の池湧水群をはじめ多くの湧水

が豊富にあったこと、交通の便が良かったこと、国府に向かって南面する立地であること、などから、この地が寺院を建てる場所として、選定されました。



武蔵国分寺跡僧寺空中写真

史跡・自然・歴史環境の保全

国分寺市では、わが国の歴史を正しく理解するために欠くことのできないものとして、国の指定史跡となっている武蔵国分寺跡の保存と活用を進めていまして、歴史公園として、整備を終えた区域を少し

づつ広げております。

そうした中、近年、伽藍の中心部で、国分寺崖線にかかる現国分寺の東側一帯が開発の危機にみまわれてしまいました。現国分寺との敷地境から流れ下る湧水流路に囲まれた静かな佇まいの一角です。

緊急に、史跡追加指定などがなされ、保全が図られましたのは、多くの関係者の努力の結晶によるものです。

おたかの道湧水園・武蔵国分寺跡資料館

周辺が江戸時代に鷹狩り場となっていたことからお鷹の道という散策路を市が整備していますが、そこから名前をとって、おたかの道湧水園という有料公園として平成 21 年 10 月に開園しました。敷地内には湧水源がかかるため、自然環境を保護するためあります。入園チケットは入園口前にあわせてオープンしました「史跡の駅」で取り扱います。園内には、旧個人宅を改築して、武蔵国分寺跡資料館を同時に開館しました。発掘された古代瓦などを収蔵、展示して、史跡を理解していただく施設です。

毎年、春秋の散策日和の日を中心に、史跡や自然、歴史環境にあふれたこの地を訪れる方が多くおいでになります。季節を愛でる方、俳句・短歌を詠まれる方、風景や草花の写生や写真を撮影される方などもみられます。新たな施設が出来て、来訪者も増加しまして、おかげさまで、オープン後 2 万人を越えるお客様をお迎えしています。

旧名主家の屋敷地であったこの場所には、築後 160 年余り経っている長屋門が残っています。昨年 9 月に国登録有形文化財となりました。老朽化しているため、修理を行って、保存活用を図り、末長く、良好な環境を維持していきたいと考えています。



長屋門前にて 入園 2 万人記念

## 私と多摩川

### COP 10 国際子ども会議に参加して



川崎市立生田中学校  
1年生 山崎 穂垂

2010年10月に実施された、第10回生物多様性条約締約国会議「あいち・なごや国際子ども環境会議」に日本代表として出席しました。会議では自然環境や「おさかなポスト」を通じ考える外来種問題など、自然に対する思いや活動などを発表しました。海外の子ども達と意見交換をするうちに、海外の子ども達も自分の考えをしっかりと持っている事が判りました。全国川の日ワークショップや、多摩川子どもシンポジウムなどにも参加していますが、環境について考え意見交換をし、地域に発信する事が大切だと思いました。

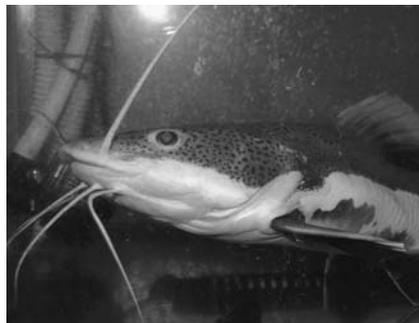
私は小さい頃から、父や姉と多摩川へ花摘みや花火、石投げなど四季を通じ遊びに行っています。夏はタモ網を用いた魚捕りや、ライフジャケットを着た川流れ、自然観察などを行っています。小学生の時には『多摩川に棲むスジエビの実験』、『カルガモ観察記録』、『多摩川に住む魚たち』のような身近な自然を観察し、夏休みの自由研究やシンポジウムのテーマとして発表しました。毎年観察を続けていると、多摩川が変わってきたことに気がきました。父と一緒に、ライフジャケットを着て魚捕りをしていると、色のきれいなメダカや、ペットショップで見かけるような魚が網で捕れるようになりました。図鑑で調べてみると、グッピーやエンゼルフィッシュなどの熱帯魚でした。なぜ多摩川に熱帯魚が棲んでいるのか調べると、飼いきれなくなった熱帯魚や金魚などを多摩川へ逃がしてしまう人がいました。さらに

詳しく調べると、多摩川は熱帯魚が生息できるほど温暖化してい



ました。温暖化の原因は多摩川へ大量に流れ込む下水処理水が原因でした。お風呂やトイレ、台所などで使われたお湯や水は、下水処理場できれいになりますが、冷まされず温かいまま放水するため、多摩川が温暖化していました。

多摩川に熱帯魚が捨てられるのを防ぐため「おさかなポスト」が多摩区稲田公園に設置されています。私はおさかなポストの



ジュニア会員として、「おさかなポスト」に入った魚の飼育、管理をお手伝いしています。おさかなポストに入れられる魚達は、餌代や電気料金がかかりすぎる、引っ越しで連れていけない、大きくなりすぎた、病気だから、奇形だからなど、人間の都合で捨てられる魚達ばかりです。おじいさんが亡くなりおばあさんだけでは魚の世話ができないなど、お気の毒な理由もあります。2010年は「おさかなポスト」に約7万匹もの外来種がはいりました。その魚達は「おさかなポストの会」で保護し、薬浴をさせ病気などが無いことを確認してから里親学校へ贈り、子ども達に育ててもらっています。私が通っている川崎市立生田中学校も「おさかなポスト里親学校」として熱帯魚を飼うことにより、命の大切さや生態系の保全などを生徒や先生も学んでいます。

多摩川の観察や調査、「おさかなポスト」を通して、これからも多摩川の生態系を守っていきたく思います。



メールアドレス  
RiverRanger777@gmail.com  
「おさかなポストの会」事務所  
神奈川県川崎市多摩区生田7-25-1  
電話 044-933-3220  
代表 山崎充哲  
<http://homepage2.nifty.com/gasagasaqua/>

# 歴史／多摩川

## 400年の四ヶ領用水



二ヶ領用水竣工400年プロジェクト  
代表 長島 保  
(地域史研究家)

かつて多摩川兩岸、下流域一帯の地は一大穀倉地帯であった。その嚆矢は、関東入国早々の徳川家康による多摩川下流域の開墾だ。用水奉行に任じられた小泉次大夫が、地域農民の協力を得て、兩岸に二筋の四ヶ領用水を竣工した。慶長16(1611)年のこと、県内足柄地域の旧酒匂堰と並ぶ、南関東では極めて古い農業用水なのだ。この3月1日には、竣工からちょうど400年の節目の時を迎える。下流域兩岸では、すでに2年ほど前から、400年記念の行事が展開されてきた。

さて、この四ヶ領用水、左岸では多摩郡世田谷領和泉村(狛江市)で取水して、世田谷領～荏原郡六郷領の二ヶ領に疎水した。右岸では、橘樹郡稲毛領～川崎領の二ヶ領を流下したが、江戸時代半ば過ぎの記録では、中ノ嶋村・宿河原村の両口で取水し、稲毛領37カ村・川崎領23カ村、合計60カ村、2000余町歩の田畑を潤した。六郷用水は約1500町歩、世田谷領14カ村・六郷領35カ村、合わせて49カ村を灌漑した。いずれにしても兩岸四ヶ領一帯には、多摩川の恵みを受けた沃野が広がり、米の一大産地が現出した。なかでも二ヶ領用水の水で育まれた「稲毛米」は、江戸へ出荷され、寿司米として珍重されたという。

この用水、ほかに多彩な余業を育て、生活用水としてもさまざまに用いられた。良質な稲藁は畳材料に、正月用の注連飾りの特産も生まれた。各所に水車小屋が建ち、山かげでは、横穴の氷室を設けて、天然水がつくられた。堀なかで染め物の水洗も行われた。

古くから飲み水や煮炊きの水にも使われ、川崎の町では、江戸後半から用水の水を販売する水屋が出現した。



障子の棧まで用水で洗った。昭和12年ごろ、塩浜(川崎区)で〔川崎市編「かわさきのあゆみ」から〕

洗い場があって、洗面、洗濯をはじめ、米とぎ、鍋、釜や野菜、農具や家具、貼り変える障子の棧まで洗われた。庭木への撒水や風呂の水にも使われた。こうして、人々の日常生活に深く密着してきたのだ。

だからこそ、用水堀を大切にしてきた。堀へは下水や廃水は流さない。しかも、地域総出で川ざらいや岸辺の草刈を行った。よく流れて、藻草が生え、自浄作用を持つ清流にして守り続けてきたのだ。

ところが近代になり、急速な都市化が進んだ。いまや用水の環境は激変した。左岸の六郷用水は、取水口から上流部は道路と化し、中流域では親水護岸化が進んだとはいえ、丸子川と改変され、下流域では大半が流路跡はとどめて、姿を消した。かろうじて、世田谷区の次大夫堀公園や岡本の素掘り風水路、大田区の六郷用水公園などに、歴史を垣間見ることができる。

一方、右岸の稲毛川崎二ヶ領用水だが、二つの取水堰と、幹線水路の大本が残された。桜並木や桃並木、遊歩道の整備など親水化も進んだ。だが、多数の分水堀や堰は、歴史を書き留めることなく、蓋がけされ、埋められた。たしかに、農業用水として役割は終わろうとしている。だが、いまでも「産業の血」といわれる工業用水の主要な水源として生き続けている。

昭和14(1939)年、わが国初の公営工業用水道が、二ヶ領用水の余剰水を水源にして、平間浄水場(配水所)で始まった。以来曲折はあったが、いまでも上河原堰堤で二ヶ領用水に導入された水は、



生田浄水場の超高速凝集沈でん池。フランス生まれの優れたもの〔川崎市上下水道局の資料から〕

日量最大20万m<sup>3</sup>が稲田取水所で取水されている。それが生田浄水場に送られ、世界最新鋭の超高速凝集沈でん池で処理され工業用水となり、地下の長大送水管を通過して平間配水所へと向かい、臨海地帯の工場へと配水される。まさに、もう一つの二ヶ領用水が、川崎の市域を縦断しているのだ。



二ヶ領用水の上河原堰堤(多摩区布田)。導水された表流水の大半は、この先の稲田取水所に入る。

## インフォメ 多摩川

多摩川流域の各種団体等の3月から6月頃まで行われる環境活動に関する主な行事・イベント情報を紹介いたします。

### 美しい多摩川フォーラム

- 第3回美しい多摩川フォトコンテスト入選作品展&美しい多摩川の四季・淡彩スケッチ原画展  
(3月8日～13日：青梅市立美術館)
- 美しい多摩川の四季・淡彩スケッチ原画展(4月1日～28日：二ヶ領せせらぎ館)
- 桜コンシェルジェ展(3月19日～4月10日：立川市・国営昭和記念公園花みどり文化センター)
- 桜守学校(3月21日：立川市・国営昭和記念公園花みどり文化センター)
- 多摩川夢の桜街道・桜の札所巡り事業  
3月21日～27日:ボサノヴァ・チャリティーコンサート・イベント「写真展&淡彩スケッチ画展」:「多摩川夢の桜街道&美しい多摩川の四季」  
3月26日:多摩川夢の桜街道～ボサノヴァ・チャリティーコンサート～美しい多摩川フォーラム、羽村市、羽村市教育委員会、小野リサ、語り部・平野啓子フォーラム運営委員  
3月29日:多摩川夢の桜街道～桜の札所巡り/十五番・妙法寺～美しい多摩川フォーラム、語り部・平野啓子フォーラム運営委員  
4月5日:羽村・福生～美しい多摩川フォーラム、JR東日本、西武鉄道、多摩モノレール  
4月8日:高尾・多摩森林科学園～美しい多摩川フォーラム、多摩森林科学園、京王電鉄、サンケイリビング多摩、大谷桜守  
4月11日:あきる野・龍珠院、御岳渓谷、御岳山、青梅・海禅寺～はとバス、大谷桜守  
4月15日:あきる野・龍珠院&光厳寺、瀬音の湯～美しい多摩川フォーラム、サンケイリビング多摩、大谷桜守  
4月16日:あきる野・龍珠院、御岳渓谷、青梅・海禅寺～美しい多摩川フォーラム、はとバス、大谷桜守、語り部・平野啓子フォーラム運営委員
- 美しい多摩川フォーラム・平成22年度総会(5月21日)
- 美しい多摩川フォーラムの森・開設イベント(5月28日予定)
- 多摩川一斉水質調査(6月5日)  
(問い合わせ先) 美しい多摩川フォーラム事務局(青梅信用金庫 地域貢献部内) 担当:宮坂/土方/及川  
TEL:0428-24-5632 FAX:0428-24-4646 E-mail:forum@tama-river.jp URL:http://tama-river.jp

### がさがさ水辺の移動水族館

- 多摩川湧水池観察会(多摩川の湧水池では川崎市最大の場所を観察します)  
・3月6日(日)14時～16時(：材料費1人1,000円)  
集合：小田急線・南武線/登戸駅または現地 開催場所：多摩区堰 東名高速道路の橋上流(駐車場無し)
- 多摩川春の観察会(魚類・外来種・定置網網揚げ体験。たも釣りで魚採りと外来種調査用に仕掛けてある定置網の網揚げを体験します。)  
・3月13日(日)14時～16時(：材料費1人1,000円) 集合：多摩区稲田公園魚の家 開催場所：多摩川稲田堤付近(駐車場有り)  
・4月17日(日)14時～16時(：材料費1人1,000円) 集合：多摩区稲田公園魚の家 開催場所：多摩川稲田堤付近(駐車場有り)  
・4月23日(土)14時～16時(：材料費1人1,000円) 集合：多摩区稲田公園魚の家 開催場所：多摩川稲田堤付近(駐車場有り)  
・5月7日(土)14時～16時(：材料費1人1,000円) 集合：多摩区稲田公園魚の家 開催場所：多摩川稲田堤付近(駐車場有り)  
・5月15日(日)14時～16時(：材料費1人1,000円) 集合：多摩区稲田公園魚の家 開催場所：多摩川稲田堤付近(駐車場有り)  
・5月22日(日)14時～16時(：材料費1人1,000円) 集合：多摩区稲田公園魚の家 開催場所：多摩川稲田堤付近(駐車場有り)  
・5月29日(日)14時～16時(：材料費1人1,000円) 集合：多摩区稲田公園魚の家 開催場所：多摩川稲田堤付近(駐車場有り)
- 投網体験教室(稲田公園で投網体験をします。陸上で実施しますのでお菓子が獲物です。)  
・3月19日(土)14時～16時(：材料費1人1,000円) 集合：多摩区稲田公園魚の家 開催場所：多摩区稲田公園(駐車場有り)
- 東生田小学校 ふれあい移動水族館(学校行事になりますので一般の方は参加出来ませんが見学、取材は可能。)  
・3月22日(火)14時～16時(：参加費無料) 開催場所：川崎市多摩区 東生田小学校(駐車場無し)
- 多摩川マルタ釣り大会(多摩川に産卵のために戻ってきたマルタ釣りを観察します。ルアー・フライなどで楽しめます。)  
・3月27日(日)8時～12時(：参加費無料) 集合：高津区二子橋下を予定 開催場所：多摩川二子地区(駐車場有り)
- マルタまつり 観察会(多摩川に産卵のために戻ってきたマルタの産卵を観察します。)  
・4月3日(日)9時～(：材料費1人1,000円) 集合：高津区か多摩区を予定 開催場所：高津区か多摩区を予定(駐車場無し)  
・4月10日(日)9時～(：材料費1人1,000円) 集合：高津区か多摩区を予定 開催場所：高津区か多摩区を予定(駐車場無し)
- マルタ観察会(多摩川に産卵のために戻ってきたマルタの産卵を観察します。)  
・4月6日(水)5時～(：材料費1人1,000円) 集合：高津区か多摩区を予定 開催場所：高津区か多摩区を予定(駐車場応談)  
・4月13日(水)5時～(：材料費1人1,000円) 集合：高津区か多摩区を予定 開催場所：高津区か多摩区を予定(駐車場応談)

- アユ観察会（遡上して来たアユが調布堰（丸子橋付近）宿河原堰でジャンプする姿が観察出来ます。）
- ・4月20日(金)11時～14時 \*メディア限定 集合:中原区調布堰丸子橋上流 開催場所:中原区調布堰丸子橋上流(駐車場応談)
  - ・5月1日(日)15時～(材料費1人1,000円) 集合:多摩区宿河原 宿河原堰魚道 開催場所:多摩区宿河原 宿河原堰魚道(駐車場応談)
  - ・5月3日(火)15時～(材料費1人1,000円) 集合:多摩区宿河原 宿河原堰魚道 開催場所:多摩区宿河原 宿河原堰魚道(駐車場応談)
- 春のアユまつりin丸子（遡上して来たアユが調布堰（丸子橋付近）宿河原堰でジャンプする姿が観察出来ます。ライブ水中カメラで泳ぐアユをテレビに映します）
- ・4月24日(日)14時～16時(参加費無料) 集合:中原区調布堰丸子橋上流 開催場所:中原区調布堰丸子橋上流(駐車場有り)
  - ・5月4日(水)11時～13時(参加費無料) 集合:多摩区宿河原 宿河原堰魚道 開催場所:多摩区宿河原 宿河原堰魚道(駐車場無し)
- 多摩川のコイの産卵観察会と外来種調査（多摩川でコイの産卵を観察します。同時にたも網で魚採りと外来種調査用に仕掛けてある定置網の網揚げを体験します。）
- ・4月28日(木)4時～16時(材料費1人1,000円) 集合:多摩区稲田公園魚の家 開催場所:多摩川稲田堤付近(駐車場有り)
- 自然観察会 多摩川河口アナジャコ観察会 筆釣り体験（多摩川河口の干潟でアナジャコの筆釣り体験します。）
- ・5月8日(日)13時～15時(材料費1人1,500円)  
集合:京浜急行・東京モノレール/天空橋 バス停横または現地 開催場所:大田区羽田飛行場前(駐車場無し)  
(問い合わせ・連絡先) ガサガサ水辺の移動水族館・おさかなポストの会 代表 山崎  
メールアドレス RiverRanger777@gmail.com TEL:090 - 3209 - 1390

財団法人 世田谷トラストまちづくり

野川せせらぎ教室～世田谷区成城四丁目付近の野川

- ・春！草花とあそぼう！（4月23日 午前9時30分～11時30分 要申込）
- ・川の生きものさがし（5月29日 午前9時30分～11時30分 要申込）

初夏のバードウォッチング～世田谷区内の多摩川（6月11日 午前9時30分～11時30分 要申込）

世田谷トラストまちづくりビジターセンター身近な自然と触れ合うミニイベント～世田谷区成城4 - 29 - 1（野川沿い）

（原則毎月第2土曜日・午後1時30分～3時 要申込）

（問い合わせ）（財）世田谷トラストまちづくり トラストまちづくり課

TEL:03 - 6407 - 3311 FAX:03 - 6407 - 3319 財団HP <http://www.setagayatm.or.jp/>

GeoWonder 企画 むさしの化石塾

4月23日(土曜)「250万年前の足跡化石観察と琥珀採集会」

八王子市清川町北浅川左岸中央高速鉄橋下土手上 1時30分 集合

5月21日(土曜)「日野市連光寺層多摩川河床で貝化石調査」

多摩都市モノレール柴崎体育館駅改札出口 1時30分集合

6月25日(土曜)「コウノトリの足跡化石産地見学」

多摩川右岸側露頭散策 日野駅改札前 1時30分集合

参加費1000円(資料代含む)

(申込・問い合わせ) むさしの化石塾事務所 福嶋まで

携帯:090 - 1769 - 8020 FAX:042 - 567 - 1095 Web 申込 E-mail: [geo@extra.ocn.ne.jp](mailto:geo@extra.ocn.ne.jp)

多摩川流域における後期洪積世初頭の人類文化の成立と地形環境を考える研究会

(比田井民子 鈴木次郎 上條朝宏 畠中俊明)

本研究は、とうきゅう環境財団より、研究課題「多摩川流域における後期洪積世初頭の人類文化の成立と地形環境について」として2009年度、2010年度の研究助成を受けて進めてまいりました。多摩川は約10万年以前には多摩丘陵から相模野台地にかけて流路があった時代もあり、同じような条件にもとづく地形形成、地形環境があった相模野地域へも研究の対象範囲を広げて、立川ローム層下部にある石器群についての諸問題について、実際の遺跡の調査成果を掘り下げながら、考古学、自然科学からの学際的検討することを目的としています

開催場所:相模原市立博物館大会議室(地階)

開催日時:平成23年3月21日(月) 祝日 9:30 受付 9:45 開始

- 1 入場は無料です。
- 2 どなたでも参加できますが、会場の都合、先着150名とさせていただきます。
- 3 資料を必要な方は当日、有償にて頒布させていただきます。
- 4 問い合わせ先

事務局 比田井民子 携帯 090 - 6163 - 5025 ファックス 03 - 5478 - 0869

\* 相模原市博物館では会の問合せに対応はいたしませんので、連絡は事務局のほうにお願いいたします。

# たまがわスケッチ散歩

画と文 野尻明美 (のじりあけみ)

(株)東建ジオテック 顧問、

一級建築士、工学博士 (東北大学)

科学技術庁長官賞、紫綬褒章 受章

東急ハンズ大賞クラフトの部入選



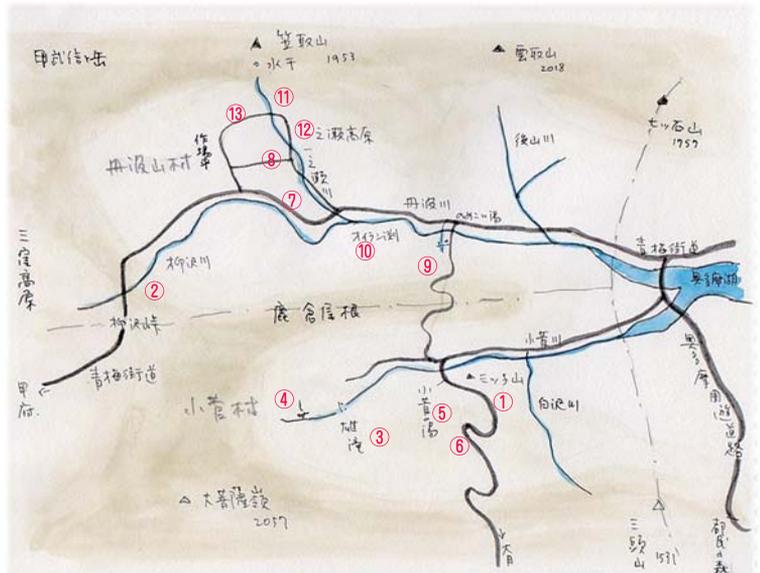
① 自然豊かな源流域にはキャンプ場はあちこちに出来ているが、この**原始村**もその一つ。右の桜の山は三つ子山で1000本桜といわれているが今は半分ぐらいが残る程度。その裏山はカタクリなどの山野草の宝庫となっている。



② 青梅街道の最高点柳沢峠近くから流れる**柳沢川**。クマやイノシシよけの大型犬の犬小屋が沢山ある。



③ 小菅の湯の駐車場から、のどかな**小菅村**の里山風景が広がっている。雪どけころに散策すると足下にはふきのとうがあちらこちらに芽吹いている。



## 源流域

山梨県の**丹波山村・小菅村**を中心とした奥多摩湖までの急流域。奥多摩湖には丹波川と小菅川の2本の川が流れ込んでいる。前者は50mを超すような浸食岩壁の間を男性的な流れとなっているが、後者は女性的に里山を潤すようにおだやかな流れとなって奥多摩湖へ注ぐ。



④ 小菅川の源流の一つ**白糸の滝**。梢から木の葉がすっかり落ちると現れるようなほっそりとした滝



⑤ 小菅川の源流の一つ**雄滝**。観音台もあるような観光スポットだが、すぐ手前にも岩肌を滑り落ちるような滝がある。



⑥ 林業も、製炭業も衰退し今やこの付近の産業は僅かに谷川の**ワサビ**が中心。



⑦ 武田信玄の隠れ金山亀嶺谷金鉱山師の集落であった**一之瀬集落**は400軒もの大集落であったそうだ。今や限界集落でこの1軒の茅葺き古民家が当時の面影を残している。



⑧ 一之瀬集落の守護神**金鶏寺**は今や廃寺。周囲には100年樹や最近植えた若木がシカの食害から守るために塩ビパイプで保護されながら、静かに春の訪れを告げている。



⑨ 丹波川の源流の**雄滝雌滝**は村営そばや「やまびこ庵」の粉ひき水車小屋の動力となっている。



⑩ 悲しい伝説のある**おいらん淵**の淀みは深く落葉した冬でさえ川面を見ることが出来ない。代わりに急流のしぶきが岩間からの湧水が分からないが、氷壁となって見事な造形美を見せてくれる。



⑪ 作場平の駐車場より、よく整備されたハイキングコースをのぼりつめたらここで一休み。**笠取山小屋**の主人が温かく迎えてくれる。もう一息で山頂へ到着。



⑪ **水干** 多摩川の最初の1滴はこのスケッチの中央にある祠からといわれているが、雨でも降らないと見つけることは無理。ほとんど80度に近い絶壁でその上には水神社が祀られている。



⑬ 右 **笠取山山頂付近**は春になるとミツバツツジでピンク色に変身する。右手前の三角点が富士川・多摩川・荒川の3分水地点。多摩川源流の水干は笠取山の右側崖下へへばりついている。

# 財団事業年報特集

## 1 事業日誌 (2010年1月～2010年12月)

- 1月15日 平成22年度助成研究の公募を締め切る(応募件数39件)
- 1月27日 第409回常任理事会を午後2時から南平台東急本社で開催  
- 第59回理事会、第55回評議員会開催について ほか
- 2月27日 第410回常任理事会を午後2時から南平台東急本社で開催  
- 第52回定時選考委員会開催について ほか
- 3月1日 財団だより“多摩川”第125号(事業年報特集号)発行  
- 巻頭言“環境から持続可能性へ(第1回当財団社会貢献学術賞受賞 鈴木 基之)  
- 特別寄稿“多摩川を描く”(美しい多摩川フォーラムアドバイザー 野尻 明美)
- 3月8日 第52回定時選考委員会を午後1時30分より、財団事務所会議室で、  
選考委員9名出席のもと開催  
- 新規研究11件(学術研究6件、一般研究5件)  
継続研究7件(学術研究5件、一般研究2件)をそれぞれ採択
- 3月23日 第59回理事会を午前9時より南平台東急本社にて開催  
第55回評議員会を午前10時より南平台東急本社にて開催  
- 平成22年度事業計画及び同収支予算の承認 ほか
- 3月29日 第411回常任理事会を午後2時から南平台東急本社で開催  
- 2月分決算について
- 4月14日 研究助成成果報告書発行(CD-ROM・研究概要小冊子添付)  
- 学術研究第38巻(7件収録)、一般研究第31巻(8件収録)を各々制作し、多摩川流域の  
図書館、教育委員会、国会図書館、首都圏の主な大学図書館等へ235部贈呈
- 4月19日 第412回常任理事会を午後2時半から南平台東急本社で開催  
- 第60回理事会、第56回評議員会議案について ほか
- 5月4日 山梨県小菅村主催「第24回多摩源流祭り」を後援
- 5月12日 第56回評議員会を午後4時より南平台東急本社にて開催  
- 平成21年度事業報告、収支決算の承認、公益財団法人移行認定申請・定款について  
第60回理事会を午後4時50分より南平台東急本社にて開催  
- 平成21年度事業報告、収支決算の承認  
- 評議員2名の辞任、1名の選任、  
- 公益財団法人移行認定申請・定款。最初の評議員候補について
- 6月1日 財団だより“多摩川”第126号発行  
- 巻頭言“水の国 日本”(俳優 地井 武男)  
- 特別寄稿“廃棄物処分場に復活した自然”(東京たま広域資源循環組合 三田村浩昭)
- 6月17日 公益財団法人“最初の評議員選定委員会”を午後2時より財団事務所会議室にて開催
- 6月1日 環境学習副読本「多摩川へいこう」を15,000部増刷し、多摩川流域の小学校115校に11,474  
~7月31日 部贈呈

- 6月29日 第413回常任理事会を午後3時から南平台東急本社で開催  
- 平成22年度研究助成金贈呈式について ほか
- 7月9日 平成22年度助成金贈呈式を午前11時30分より、渋谷エクセルホテル東急で開催  
- 学術研究者6名、一般研究5名並びに来賓・評議員・理事・選考委員など約60名が出席
- 7月29日 第414回常任理事会を午後4時から南平台東急本社で開催  
- 6月分決算について
- 9月1日 財団だより“多摩川”第127号発行  
- 巻頭言“100年以上歌い継ぐ「多摩川の歌」を”(人事院人事官 篠塚 英子)  
- 特別寄稿“半径300メートルに責任を”(淵の森の会事務局長 安田 敏男)
- 9月1日 (社)国土緑化推進機構「緑と水の森林基金」から平成22年度の助成が承認
- 9月22日 内閣府より公益財団法人とうきゅう環境財団認定書受領
- 9月26日 千葉大学大学院医学研究院主催 市民講座「水の安全性と健康管理」を後援  
(会場：八王子市あったかホール)
- 9月29日 第2回社会貢献学術賞選考委員会を午前10時より、財団事務所会議室で開催  
- 東京農工大名誉教授 亀山 章氏に決定
- 9月30日 第415回常任理事会を午後前10時から南平台東急本社で開催  
- 平成23年度調査・試験研究助成の公募について ほか
- 10月1日 財団法人とうきゅう環境浄化財団の解散と公益財団法人とうきゅう環境財団の設立登記完了
- 10月28日 第1回常任理事会を午前10時から南平台東急本社で開催  
- 上半期決算、下半期収支計画について ほか
- 11月16日 平成22年度第2回社会貢献学術賞贈呈式を午前11時より、キャピトル東急ホテルで開催  
- 受賞者(亀山章氏)並びに来賓・評議員・理事・選考委員など約60名が出席
- 11月19日 第1回理事会を午後3時30分より南平台東急本社にて開催  
- 平成22年度上期事業報告、収支決算の承認  
- 平成22年度下期事業計画、収支計画の承認  
- 諸規程の制定について ほか
- 11月26日 第2回常任理事会を午後3時から南平台東急本社で開催  
- 10月分決算について
- 12月1日 財団だより“多摩川”第128号発行  
- 巻頭言“河川とエコロジカル・ネットワーク”(第2回当財団社会貢献学術賞受賞 亀山 章)  
- 特別寄稿“魚道の研究から多摩川を見た課題”(日本大学理工学部教授 安田 陽一)
- 12月7日 第1回評議員会を午後3時より南平台東急本社にて開催  
- 平成22年度上期事業報告、収支決算の承認  
- 平成22年度下期事業計画、収支計画の承認  
- 諸規程の制定について ほか
- 12月22日 第3回常任理事会を午後4時から南平台東急本社で開催  
- 11月分決算について ほか

## 2 研究助成事業

当財団では、平成22年度研究助成金贈呈式を、7月9日(金) 渋谷の渋谷エクセルホテル東急で開催し、本年4月を開始月とする新規の助成研究11件に助成金を贈呈致しました。継続研究7件も承認されていますので、本年度は18件を助成していることとなります。ここに全助成研究をご紹介します。(継続研究および4月にCD-ROMと概要小冊子が完成し多摩川流域の図書館等に配布、贈呈した研究については課題と研究者名のみ掲載)

### < 新規助成研究 >

#### 学術研究

#### 多摩川流域における親水活動を介した健康関連微生物の水系感染リスクの評価



原本 英司 (ハラモト エイジ)

山梨大学 大学院医学工学総合研究部附属  
国際流域環境研究センター 助教

多摩川は、都会に住む人々にとって貴重な憩いの場であり、水遊びをはじめとした様々な親水活動に利用されている。多摩川の水質は以前に比べて格段に改善され、親水活動時における「水の微生物学的な安全性」は年々向上していると期待される。しかしながら、中・下流域では下水放流水が流量の多くを占めていることに変わりはなく、多摩川での親水活動の安全性を具体的な数値として示すことには大きな意味があると言える。

本研究では、多摩川の上流域から下流域までの複数の地点を対象とした定期的なサンプリング調査を通して、水系感染症を引き起こす健康関連微生物(ノロウイルスやクリプトスポリジウム原虫など)の汚染実態を解析することを目的とする。さらに、汚染実態調査で得られた知見を用い、河川での親水活動による健康関連微生物の水系感染リスクを算出し、多摩川の微生物学的な安全性の評価を目指す。

#### 多摩川全域の河川堆積物と河川水の有害重金属元素マッピング

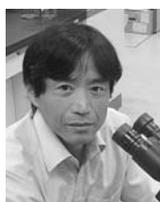


加藤 泰浩 (カトウ ヤスヒロ)

東京大学大学院工学系研究科  
システム創成学専攻 准教授

多摩川のような首都圏の河川系へは、人間活動に由来する環境汚染物質の流入が本流以外の多くの支流からもたらされている、とくにAs, Se, Cd, Sn, Sb, Te, Pbなどの重金属元素は、微量であっても、生態系へ甚大な影響を与える。申請者は学術研究No.283により、上流・中流域の93地点から得られた174個の河川堆積物、河川水試料について、これらの重金属を含んだ全55元素の含有量データを網羅的に把握した。本研究は、さらに多摩川の中流・下流域において同様の研究を展開し多摩川全域の有害重金属元素マッピングを完成させ、重金属汚染をもたらす起源物質を特定するとともに、多摩川水系の環境浄化のための基礎データを構築することを主な目的とする。さらに、河川堆積物と河川水との間でこれらの有害重金属元素がどのように分配されているのか、その支配因子を抽出し、環境浄化のための対処法についても提言を行う。

#### 安定同位体比及び土壌微量成分分析を用いた河床低下に伴う土丹露出・流出による河川生態系への影響についての研究



浅枝 隆 (アサエダ タカシ)

埼玉大学大学院理工学研究科  
環境科学領域 教授

近年の多摩川の河川管理上の課題のひとつとして、河床低下に伴う土丹層の露出があげられる。多摩川中流域の昭島地区にみられるように、露出した土丹層は、多摩川の風物となっているが、一方では、その拡大が、河川管理のみならず河川生態系に与える影響が懸念される。しかしながら、河床の土丹層の露出による具体的な河川生態系への影響については、まだ未研究の領域である。

多摩川においても、急速に河川敷内に畑雑草群落やつる植物などが侵入・拡大しており、単に洪水攪乱の減少や、植物のリター起源による栄養塩だけでは、近年の著しい繁茂は説明しがたい部分がある。

本研究は、多摩川水系における藪化・樹林化の要因の一つとして、河床低下により露出した土丹層の流出が、富栄養土壌を必要とする草本やつる植物の繁茂に寄与しているという仮説のもと、安定同位体比分析や土壌成分分析を用いて、その因果関係を解明することを目的とする。

#### 多摩川水系における底生動物分布の長期的変化



加賀谷 隆 (カガヤ タカシ)

東京大学大学院農学生命科学研究科 助教

地球規模の温暖化は、水温の上昇とともに、それともなう流況の変化、さらに土砂移動による生息場所の改変、河川水の化学性の変化を引き起こすことで、河川生物に対し大きな影響を及ぼすと予測されているが、温暖化が河川生物の空間分布に影響を与えていることを示す実証例はごく少ない。多摩川水系では、1984～1991年にかけて、底生動物群集の主要な構成要素であるカゲロウ目、カワゲラ目、トビケラ目について、綿密な分類学的検討に基づいた分布調査が行われている。特にトビケラ目については、165地点における各種の詳細な分布が明らかにされており、種ごとの分布パターンには水温が重要な分布規定要因であることが示唆されている。本研究は、過去の研究と同様の手法を用いて調査を行い、これらの研究と結果を比較することで、多摩川水系における底生動物の20～25年にわたる長期的な分布変化を、トビケラ目を中心として解明することを目的とする。

## 多摩川上流に位置する奥多摩湖の富栄養化に及ぼす釣りレジャーの影響に関する調査研究



牧野 育代 (マキノ イクヨ)

東北大学環境保全センター 助教

本研究は、湖沼での釣りレジャーのあり方について理解を深め、それを持って、多摩川水域の水質保全に役立てることを目的とする。多摩川上流に位置する奥多摩湖では毎年5月ごろより釣りのシーズンとなり、多い時には奥多摩湖にかかる橋の上や岸、浮き橋に立ち並び夕方まで釣りを続ける光景を目にするようになる。ある釣り人に尋ねたところ、1日に使う釣り餌は5 kg ~ 10kg程度と話しており、釣り餌に含まれる栄養分は全て直接的に奥多摩湖に投入される状況を目の当たりにした。6月のある1日のあたりの釣り人は数十人にのぼり、釣り餌による負荷は大きいことが予測され、奥多摩湖の富栄養化には湖沼での釣り行為が大きく関与しているであろう仮説に至った。本研究は、その仮説を化学分析、生物試験、歴史調査などの手法を用いて総合的に検証し、多摩川の水質保全の立場から釣り行為を単なるレジャーとして捉えることの問題点について探究するものである。

## ドングリを使った多摩川流域の環境モニタリングとスペシメン・ライブラリ



楊 宗興 (ヨウ ムネオキ)

東京農工大学 大学院農学研究院 教授

採集と保管が容易であるドングリに着目して複数の安定同位体と各種微量元素の高感度測定を行い、多摩川流域の環境モニタリングならびに将来へ向けてのスペシメンバンキングを実施する。窒素安定同位体比からは、窒素飽和現象の広がりの現状、ならびに将来に対する見通しを得ることを目的とする。また、炭素・酸素の各安定同位体比、一般化学成分、微量金属成分の測定結果からは、地質学的条件を含む生態系情報ライブラリを多摩川流域について構築し、これらから、地質、標高、水分、酸性化影響等のシグナルを読み取る。その将来的発展の一つとして、大型野生動物の行動履歴解読への利用の可能性も検討する。これまで行われたことのない複数の測定を組み合わせることで、今後の解析に有益な新たな環境情報の抽出とデータライブラリを整備し、マップとして可視化し、さらには、将来へ向けた試料バンクを構築する。なお、小学生や一般市民にも調査への参画・協力を呼びかけ、この関係作りを軌道に乗せることで、将来的により広域、高解像度の試料収集への道筋も付けたい。

## 一般研究

### 第3回多摩川流域市民学会の開催



長谷川 博之 (ハセガワ ヒロユキ)

東京都立日野高校 生物科教諭

この学会は、多摩川における市民ネットワークの推進、官・学・産との交流、情報の交換・蓄積を重要課題としながら、多摩川をよりよい川にしていこうための、市民主体の学びの場、研究の場を創出することを目的とする。多摩川の諸課題に対して、縦割り行政やアカデミズムの専門性、行政の地域性の限界を超えた、総合的で、地域間・研究分野間の横断的な市民科学・市民運動としての取り組みを主眼とする。この市民学会を通して、流域市民、自治体、教育関係者等への大人・子どもを問わない環境啓発活動や、流域の自然・歴史・文化遺産や情報の発見・収集、時代の変遷を踏まえた環境保全や生き生きとしたネットワークを基盤とした流域の環境社会の創造に広く寄与することを目指す。学会の運営が当面の課題だが、そのみに留まらず、日常的な事業活動として、様々なネットワーク事業の実施、多摩川の諸課題についての調査・研究、多摩川に関するあらゆる情報のデータベースの構築などを行い、学会は、その日常活動の延長・集約として位置づける。

## 多摩川流域の地下水研究を総括して継承、発展させるための研究



宇田川 隆男 (ウダガワ タカオ)

みずとみどり研究会

地下水は一般に分かりにくい世界だが、水資源・環境として重要であり、地下水研究の到達点及び、東京における地下水の意義、課題を明らかにしたい。

多摩川流域の地下水研究の総括：多摩川流域に関わる地下水研究はこれまでに数多く行われ、多くの成果を得ている。これを市民にもわかりやすく総まとめを行う。

研究資料の集積と整理：近年、地下水研究の成果や貴重なデータが逸散する傾向にある。研究者の高齢化や研究機関の縮小などがその原因である。活躍されてきた各研究者の研究を系統的に整理してまとめることにより、今後の研究の手掛かりとする。

市民や若手研究者への研究の継承と発展：地下水の研究成果を市民や若手研究者が活かせるように、議論の場を設ける。連続セミナーやシンポジウムを通して総括された研究成果を市民や若手研究者に引き継ぐことにより、地下水への関心を高め、新たな研究の道を開く。

## 多摩川中流域の自然を活用した自然体験学習の支援ならびにその教材づくり



有馬 佳代子 (アリマ カヨコ)  
どんぐりクラブ (日野市環境学習サポートクラブ)

「どんぐりクラブ (日野市環境学習サポートクラブ)」は、日野市やその周辺の小中学校、日野市教育委員会、日野市環境情報センターと連携し、生活科や総合学習の授業を中心に多摩川中流域の川や用水、公園等のフィールドでの体験的活動や、そこで採取した植物等を使用した工作等の支援を、市民の立場から行うボランティア団体である。本研究では、本団体のWebサイトを作り、環境学習支援メニューや活動の成果を広報するとともに、本団体の会員が長年撮り貯めてきた多摩川中流域に生息する生き物の高品質な映像を活用した、自然体験活動の前後に活用できるデジタル生き物図鑑「日野の生き物」を作製する。さらに、その使用法の教員・指導者に対する研修、実際の事前・事後学習、ならびに野外での体験活動を支援することにより、自然のなかでの活動をより一層充実したものとし、そこで得られた感動や、知識を定着させることを目的とする。

## 西暦2010年の多摩川を記録する運動



横山 十四男 (ヨコヤマ トシオ)  
特定非営利活動法人多摩川センター

同運動は、西暦2000年を迎えるにあたり、市民の視点で多摩川の現状を記録し、後世に引き継ぐことを目的に行った。この時の調査は、多摩川の利用実態一斉調査、多摩川の映像記録の収集、多摩川の名勝地の募集、古老からの聞き取り等を行ない、2002年に記録集として発行した。以後10年を経て、再び同運動を行うことになり、多摩川の利用実態一斉調査、多摩川の映像記録の収集を中心に行うこととなった。第1回の利用実態調査は、2010年1月24日、第2回4月25日を終えた。第1回目の特別調査としては、堤防上から見える富士山の位置、第2回目は河原に咲く花5種を収集した。今回の調査は、約150名の市民、住民、流域の大学生の協力を得て行っている。このような調査を通して、若い世代が多摩川に関心を持ち環境保全活動に参画することを期待する目的もあり、運動と名称したものである。

## 多摩川流域 (東京都域) における絶滅危惧種クマタカの生態に関する調査研究



山口 孝 (ヤマグチ タカシ)  
多摩クマタカ生息調査チーム

クマタカは、山地の森林生態系の頂点に位置する大型の猛禽類である。近年、生息環境の悪化による急激な個体数の減少が危惧されており、種の保存法では「国内希少野生動植物種」、環境省レッドデータブックでは「絶滅危惧 B 類」に指定されている。

東京都内では、これまで断片的なクマタカの生息情報があるのみであったが、2006年より当チームで現地調査を行った結果、これまでに多摩川流域 (秋川・浅川流域を含む) で約20つがいのクマタカの生息を確認することができた。

本調査研究では、これまでの調査で得られた情報を基に、さらに現地での定点観察及び林内踏査を強化することにより、東京都内多摩川流域でのクマタカの生息範囲、繁殖つがい数、繁殖地、繁殖成功率、繁殖間隔、営巣環境等を明らかにすることを目的としている。また、次のステップとして、クマタカの生息環境の保全、あるいは森林の生物多様性の保全についての提言を行うことを目標としたい。

## < 継続助成研究 >

### 学術研究

## 多元素同位体分析による多摩川上流・中流・下流域の堆積物と河川水の供給源の解明と汚染状況の把握

鹿園 直建 (しかその なおたつ)

慶應義塾大学理工学部 教授

## 多摩川上中流の森林流域における土壌浸透能とその空間分布を考慮した降雨流出予測に関する研究

五味 高志 (ごみ たかし)

東京農工大学大学院農学府国際環境農学専攻

## 多摩川における亜酸化窒素生成細菌の生態と窒素動態における役割の解明

多羅尾 光徳 (たらお みつのり)

東京農工大学農学部 准教授

## 多摩川流域に植栽されたサクラ類の新たな腐朽病害対策の確立に関する研究

福田 健二 (ふくだ けんじ)

東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授

## 多摩川流域環境保全データベース検証用 WebGIS 構築に関する調査研究

宮林 茂幸 (みやばやし しげゆき)

多摩川源流研究所運営委員長

東京農業大学地域環境科学部 学部長

## 一般研究

多摩川流域における後期洪積世初頭の人類文化の成立と地形環境について

比田井 民子 (ひだい たみこ)

(財)東京都スポーツ文化事業団東京都埋蔵文化財センター

多摩川河口域における体験学習支援活動

多摩川干潟プロジェクト5周年記念事業

小野 紀之 (おの のりゆき)

特定非営利活動法人地域パートナーシップ支援センター 理事長

## - 研究助成成果報告書収録の研究 -

学術研究第38巻7件および一般研究第31巻8件の研究助成成果報告書が完成し、4月14日から多摩川流域の図書館、大学、教育委員会等235施設に贈呈いたしましたので併せて各巻収録の課題と研究者名をご紹介します。

## 学術研究

No.279多摩川における生態系多様性の評価：寄生虫を指標とし、地理情報システムを活用した方法の開発

杉山 広 (すぎやま ひろむ)

国立感染症研究所寄生動物部

No.280湧水温、湧出量とシリカ濃度に基づく涵養・湧出機構の推定 東京都日野市の例

松山 洋 (まつやま ひろし)

首都大学東京 都市環境科学研究科 准教授

No.281多摩川源流域における下水道整備が奥多摩湖の水質問題に及ぼす影響に関する研究

竇 馨 (たから かおる)

京都大学防災研究所 教授

No.282多摩川河川水の下水処理水臭の原因としてのアルデヒド系臭気

浦瀬 太郎 (うらせ たらう)

東京工科大学 応用生物学部 教授

No.283多摩川上流・中流域の河川堆積物と河川水(懸濁態および溶存態)の有害重金属元素分布

加藤 泰浩 (かとう やすひろ)

東京大学大学院 工学系研究科 准教授

No.284多摩川河川敷及び流域緑地における草地管理と草地性小動物の生息規定要因の関係把握

勝野 武彦 (かつの たけひこ)

日本大学 生物資源科学部 教授

No.285明治・大正期の別邸敷地選定にみる国分寺崖線の風景文化論的研究

笠原 知子 (かさばら ともこ)

東京工業大学大学院 社会理工学研究科社会工学専攻 助教

## 一般研究

No.181多摩川流域の畑作農家における生活文化の民俗的変容 生業・食生活・生活用水・年中行事・贈答慣行を中心に

増田 昭子 (ますだ しょうこ)

立教大学 講師/川崎市文化財審議委員

No.182巨樹・巨木調査と「源流資源マップ」作成  
中村 文明 (なかむら ぶんめい)

多摩川源流研究所 所長

No.183多摩川流域におけるヒメビロウドカミキリ個体群の分布と保全

新里 達也 (にいさと たつや)

特定非営利活動法人 野生生物調査協会 副理事長

No.184市民参加調査による多摩川における洪水攪乱後の礫河原鳥類の動態についての研究

島田 高廣 (しまだ たかひろ)

特定非営利活動法人 自然環境アカデミー 代表理事

No.185多摩川流域市民学会の開催  
長谷川 博之 (はせがわ ひろゆき)  
多摩川流域市民学会

No.187玉川碑関係史料及び論考集  
稲葉 和也 (いなば かずや)  
万葉名歌 玉川碑に集う会 会員

No.186交響詩「多摩川の流は絶えずして138」  
のコンサート活動を通して環境の啓発活動  
仙道 作三 (せんだう さくぞう)  
作曲家

No.188多摩川下流都市における谷戸の実際～生態  
学的現状と資源的展望～  
長谷川 友紀 (はせがわ ゆうき)  
東京都市大学付属高等学校 学生

### 3 第2回「とうきゅう環境財団社会貢献学術賞」贈呈式を開催

平成22年11月16日(火) キャピトル東急ホテルにて、

「とうきゅう環境財団社会貢献学術賞」は、昨年8月、財団が創立35周年を迎えるにあたり、わが国の学術振興に資することを目的として設立した記念事業です。日本の環境分野において、学術的、社会的に特に顕著な業績(調査研究、科学技術の発展、行政施策、実践活動など)を挙げた研究者を表彰いたします。

第2回となる今年度は、東京農工大学 名誉教授ならびに(財)日本自然保護協会 専務理事の亀山 章氏に、「とうきゅう環境財団社会貢献学術賞」を授与いたしました。

受賞者のプロフィールならびに受賞理由は以下のとおりです。

#### 受賞者プロフィール

##### 亀山 章(かめやま あきら)

東京農工大学名誉教授、財団法人日本自然保護協会専務理事、NPO 法人東京セントラルパーク理事長、NPO 法人地域自然情報ネットワーク理事長、文化財指定庭園保護協議会会長

##### 学歴・職歴等

1943年東京生まれ、東京大学農学部農業生物学科卒業、厚生省国立公園局技官、奈良県企画部技師、信州大学農学部助手、同助教授、同教授、東京農工大学大学院農学府教授を経て2009年退職。専門は 造園学、景観生態学、環境緑化学。

##### 受賞理由

自然保護と緑地保全の分野において、生物多様性の保全に関する基礎的研究とそれを応用した技術の開発に一貫して取り組んでこられ、長年の環境科学、環境技術並びに環境行政推進に多大な貢献をされた。

#### 4 多摩川流域で活動しているNPO法人、任意団体等一覧

多摩川流域には環境保全等で活動している団体（NPO法人、任意団体等）が200団体以上あると言われています。当財団で研究助成した団体、本誌（財団だより「多摩川」）を送付している団体等、当財団と関係が深いと思われる団体をご紹介します。（順不同）

NPO法人・任意団体名	URL
NPO法人 多摩川エコミュージアム	<a href="http://www.seseragikan.com/">http://www.seseragikan.com/</a>
NPO法人 海辺つくり研究会	<a href="http://homepage2.nifty.com/umibeken/">http://homepage2.nifty.com/umibeken/</a>
NPO法人 グリーンネックレス	<a href="http://www.green-necklace.org/">http://www.green-necklace.org/</a>
NPO法人 環境学習研究会	<a href="http://www.ecok.jp/">http://www.ecok.jp/</a>
NPO法人 全国水環境交流会	<a href="http://www.mizukan.or.jp/">http://www.mizukan.or.jp/</a>
NPO法人 地球野外塾	<a href="http://www.k3.dion.ne.jp/t-yagai/">http://www.k3.dion.ne.jp/t-yagai/</a>
NPO法人 かわさき自然調査団	<a href="http://www.geocities.jp/npo_konrac/index.html">http://www.geocities.jp/npo_konrac/index.html</a>
NPO法人 東京どんぐり自然学校	<a href="http://ueno.cool.ne.jp/tokyodonguri/">http://ueno.cool.ne.jp/tokyodonguri/</a>
NPO法人 生態工房	<a href="http://www.eco-works.gr.jp/">http://www.eco-works.gr.jp/</a>
NPO法人 自然文化誌研究会	<a href="http://npo-inch1975.hp.infoseek.co.jp/">http://npo-inch1975.hp.infoseek.co.jp/</a>
NPO法人 地域自然情報ネットワーク	<a href="http://www.geo-eco.net/index.html">http://www.geo-eco.net/index.html</a>
NPO法人 日本エコクラブ	<a href="http://www18.ocn.ne.jp/ecoclub/index.html">http://www18.ocn.ne.jp/ecoclub/index.html</a>
NPO法人 樹木環境ネットワーク協会	<a href="http://www.shu.or.jp/">http://www.shu.or.jp/</a>
NPO法人 府中かんきょう市民の会	<a href="http://fuchu-env.web.infoseek.co.jp/">http://fuchu-env.web.infoseek.co.jp/</a>
NPO法人 東京都ウォーキング協会	<a href="http://enjoywalking.jp/">http://enjoywalking.jp/</a>
NPO法人 自然環境アカデミー	<a href="http://www.h7.dion.ne.jp/%7Eacademy/">http://www.h7.dion.ne.jp/%7Eacademy/</a>
(財)日本自然保護協会	<a href="http://www.nacsj.or.jp/">http://www.nacsj.or.jp/</a>
(財)たましん地域文化財団	<a href="http://www.tamashin.or.jp/">http://www.tamashin.or.jp/</a>
(財)世田谷トラストまちづくり	<a href="http://www.setagayatm.or.jp/">http://www.setagayatm.or.jp/</a>
多摩交流センター	<a href="http://www.tama-100.or.jp/tama/">http://www.tama-100.or.jp/tama/</a>
多摩川源流研究所	<a href="http://www.tamagawagenryu.net/">http://www.tamagawagenryu.net/</a>
東京都奥多摩ビジターセンター	<a href="http://www13.ocn.ne.jp/okutamav/">http://www13.ocn.ne.jp/okutamav/</a>
多摩川流域リバーミュージアム(水辺の楽校)	<a href="http://www.tamariver.net/index.htm">http://www.tamariver.net/index.htm</a>
みずとみどり研究会	<a href="http://www3.tky.3web.ne.jp/sarahh/">http://www3.tky.3web.ne.jp/sarahh/</a>
多摩川癒しの会	<a href="http://home.m03.itscom.net/iyashi/">http://home.m03.itscom.net/iyashi/</a>
多摩川・リバーシップの会	<a href="http://river-ship.cliff.jp/">http://river-ship.cliff.jp/</a>
多摩川の自然を守る会	<a href="http://homepage2.nifty.com/tamagawa/">http://homepage2.nifty.com/tamagawa/</a>
多摩川サケの会	<a href="http://www.geocities.co.jp/NatureLand-Sky/2024/">http://www.geocities.co.jp/NatureLand-Sky/2024/</a>
実践生物教育研究会	<a href="http://www004.upp.so-net.ne.jp/jissen/">http://www004.upp.so-net.ne.jp/jissen/</a>
八王子・日野カワセミ会	<a href="http://kawasemi.fan-site.net/">http://kawasemi.fan-site.net/</a>
西多摩自然フォーラム	<a href="http://www.ntforum.org/">http://www.ntforum.org/</a>
ラブリバー多摩川を愛する会	<a href="http://homepage3.nifty.com/loveriver/">http://homepage3.nifty.com/loveriver/</a>
玉川上水ネット	<a href="http://www1.parkcity.ne.jp/tama-net/">http://www1.parkcity.ne.jp/tama-net/</a>
ガサガサ水辺移動水族館	<a href="http://homepage2.nifty.com/gasagasaqua/">http://homepage2.nifty.com/gasagasaqua/</a>
多摩川流域市民学会	<a href="http://tamagawa-shimingakkai.at.webry.info/">http://tamagawa-shimingakkai.at.webry.info/</a>
野川流域連絡会	<a href="http://www.kensetsu.metro.tokyo.jp/kasen/ryuiki/05/nogawa-title.htm">http://www.kensetsu.metro.tokyo.jp/kasen/ryuiki/05/nogawa-title.htm</a>
自然の学校	<a href="http://www.geocities.co.jp/Athlete-Acropolis/5483/">http://www.geocities.co.jp/Athlete-Acropolis/5483/</a>
むさしの化石塾	<a href="http://fossils.blog.ocn.ne.jp/kasekijyuku/">http://fossils.blog.ocn.ne.jp/kasekijyuku/</a>
里山くらぶ	<a href="http://www.satoyama-club.jp/index.html">http://www.satoyama-club.jp/index.html</a>
歴史古街道団	<a href="http://rekishikokaidodan.a.la9.jp/index.html">http://rekishikokaidodan.a.la9.jp/index.html</a>
玉川上水の自然保護を考える会	<a href="http://act.annex-tachikawa.com/cgi/units/index.cgi?siteid=skc-tachikawa&amp;areaid=36241&amp;unitid=tjsk">http://act.annex-tachikawa.com/cgi/units/index.cgi?siteid=skc-tachikawa&amp;areaid=36241&amp;unitid=tjsk</a>
奥多摩サポートレンジャー会	<a href="http://park.geocities.jp/okutama2006/">http://park.geocities.jp/okutama2006/</a>
多摩川クラブ	<a href="http://homepage3.nifty.com/gasagasa/">http://homepage3.nifty.com/gasagasa/</a>
多摩川エコモーション	<a href="http://www.fsifee.u-gakugei.ac.jp/GP/event/H19/lecture/report/20071117_report.html">http://www.fsifee.u-gakugei.ac.jp/GP/event/H19/lecture/report/20071117_report.html</a>
美しい多摩川フォーラム	<a href="http://www.tama-river.jp/">http://www.tama-river.jp/</a>
多摩さくら百年物語フォーラム	<a href="http://www.tamasakura100.net/">http://www.tamasakura100.net/</a>



絵：東郷なりさ

「いきもののつながり」制作プロジェクト  
代表 下重 喜代  
発行 サステナブル・アカデミー・ジャパン  
E-mail : kiyo-sun@nifty.com

## 「いきもののつながり」環境紙芝居 15のおはなし

### No.3 光合成のしくみ

地球が誕生したといわれる46億年前の地表は、隕石や金属がドロドロにとけ、二酸化炭素や水蒸気が充満し、酸素のない灼熱の世界でした。その後、地球が冷えて海が出来、その海中ではじめて、単細胞の原子生物が発生したのが38億年前。それからラン藻類や海草が出現し、これらの葉緑体が、海中に差し込む太陽光をエネルギーにして二酸化炭素を取り込み、大気中に酸素を放出して、オゾン層を形成し、有害な紫外線などがさえぎられ、やっと陸上に植物が進出したのが4億4千万年前といわれています。

私たち動物は、植物の光合成によって作り出される酸素と炭水化物(デンプンや糖分など)なしには生存できません。

人類は今、このいのちのつながりを無視して、二酸化炭素の大きな吸収源である森や海の藻場を破壊し、田畑をアスファルトやコンクリートで覆い、地中深くに沈む二酸化炭素の塊である化石燃料を大量消費して、まるで原始の地球に戻そうとしているかのようです。

#### ▶ 当財団の概要 (2011年3月1日現在)

**設立** 2010年10月1日  
**主務官庁** 内閣府  
**基本財産** 974百万円  
**財源** 基本財産等の運用収入並びに寄付金  
**事業内容** 研究助成事業  
**1 研究助成** 総助成件数 1,094 件  
 (新規 513 件, 継続 581 件)  
 総助成金額 1,294 百万円  
**2 学習支援** 副読本制作配布 250 千部  
**印刷刊行物** 研究助成成果報告書学術編  
 研究助成成果報告書一般編  
 財団だより(季刊) 3,800 部  
 環境副読本(毎年) 15,000 部

- |                |                                  |
|----------------|----------------------------------|
| 小 沼 通 二        | 東京都市大学 名誉教授                      |
| 櫻 井 孝 穎        | 第一生命保険相互会社 相談役                   |
| 中 村 英 夫        | 東京都市大学 総長                        |
| 中 村 良 夫        | 東京工業大学 名誉教授                      |
| 涌 井 史 郎        | 東京都市大学 教授                        |
| [常務理事] 馬 淵 広三郎 | 当財団 事務局長                         |
| [監事] 岩 田 哲 夫   | 東京急行電鉄株式会社 常勤監査役                 |
| 中 川 幸 次        | 財団法人 世界平和研究所 常勤顧問                |
| [評議員] 井 原 國 芳  | 東京急行電鉄株式会社 顧問                    |
| 海老原 大 樹        | 東京都市大学 名誉教授<br>同大学等々力中学校・高等学校 校長 |
| 上 條 清 文        | 東京急行電鉄株式会社 取締役会長                 |
| 越 村 敏 昭        | 東京急行電鉄株式会社 取締役社長                 |
| 後 藤 ヨシ子        | 横浜商工会議所 副会頭                      |
| 志 村 安 弘        | 株式会社 東芝 執行役常務                    |
| 鈴木 學           | 株式会社 日立製作所 執行役常務                 |
| 高 橋 裕          | 東京大学 名誉教授 / 選考委員長                |
| 鳥 井 信 吾        | サントリー株式会社 取締役副社長                 |
| 西 岡 浩 史        | 川崎商工会議所 会頭                       |
| 水 田 寛 和        | 株式会社 東急百貨店 相談役                   |
| 山 口 裕 啓        | 学校法人 五島育英会 理事長                   |
| [選考委員] 奥 山 文 弥 | 東京海洋大学 客員教授                      |
| (は委員長) 小 倉 紀 雄 | 東京農工大学 名誉教授                      |
| 小 堀 洋 美        | 東京都市大学 環境情報学部 教授                 |
| 齋 藤 潮          | 東京工業大学大学院 教授                     |
| 新 藤 静 夫        | 千葉大学 名誉教授                        |
| 鈴木 信 夫         | 千葉大学大学院 医学研究院 教授                 |
| 高 橋 裕          | 東京大学 名誉教授                        |
| 田 畑 貞 寿        | 財団法人 日本自然保護協会 理事長                |
| 宮 川 公 男        | 財団法人 統計研究会 会長                    |

#### ▶ 役員・評議員

(敬称略 50音順)

- |      |         |                  |
|------|---------|------------------|
| [会長] | 西 本 定 保 | 東京急行電鉄株式会社 常任顧問  |
| [理事] | 新 井 喜美夫 | 当財団 元理事長         |
|      | 石 渡 恒 夫 | 京浜急行電鉄株式会社 取締役社長 |
|      | 植 木 正 威 | 東急不動産株式会社 取締役会長  |
|      | 大須賀 頼 彦 | 小田急電鉄株式会社 取締役社長  |
|      | 小 川 春 男 | 亜細亜大学 学長         |
|      | 加 藤 奨   | 京王電鉄株式会社 取締役会長   |
|      | 小 長 啓 一 | 東京急行電鉄株式会社 取締役   |

発行日 平成23年3月1日

編集兼発行 公益財団法人とうきゅう環境財団

〒150-0002 渋谷区渋谷1-16-14  
(渋谷地下鉄ビル8F)

TEL (03)3400-9142

FAX (03)3400-9141

ホームページ <http://home.q07.itscom.net/tokyuenv/>

